



2025 年 12 月 1 日
港区立みなと科学館

報道関係 各位

港区立みなと科学館 2025 冬の企画展

「進化のフシギ」

～変わり続ける生きものたち～

開催のご案内

港区立みなと科学館(所在地：東京都港区虎ノ門 館長：布施直人)では、このたび、2025 冬の企画展として 2025 年 12 月 10 日(水) から 2026 年 2 月 23 日(月・祝) まで「進化のフシギ～変わり続ける生きものたち～」を開催いたします。

長い地球の歴史において、生きものは、環境との関わりの中で姿やくらし方を変え、今日まで進化してきました。本企画展では、恐竜から鳥へと続く大進化や、身近な生きものが環境に応じて見せる小さな進化など、さまざまな進化の姿を紹介します。

会場では、全長約6メートルのティラノサウルス模型が来場者を迎えます。その迫力ある姿は、太古の生きものの世界を想像させ、進化の歴史に思いを巡らせるきっかけとなります。展示では、多様な進化のしくみを実物大模型や標本等を通してわかりやすく紹介します。また、人がくらす都市の中で、生きものがどのように環境に適応し、進化しているのかにも注目します。

会期中は、関連イベントも多数開催予定です。子どもから大人まで、「生きものがどのようにしてこれほど長い間生きてきたのか」について考え、そのしくみと不思議を発見できる冬の企画展です。ぜひこの機会に、港区立みなと科学館で「進化のフシギ」をご体感ください。



【開催概要】

1. 企画展名称：

港区立みなと科学館 2025 冬の企画展「進化のフシギ～変わり続ける生きものたち～」

2. 主催：港区立みなと科学館

3. 監修：地球科学可視化技術研究所 所長 芝原 暁彦 氏

4. 協力：国立科学博物館、JT生命誌研究館、東京都市大学 古生物学研究室、 NPO法人Science and Art、鳥羽水族館、(公財) 東京動物園協会、しながわ水族館、 アクアマリンふくしま、東京海洋大学 マリンサイエンスミュージアム、RC GEAR (順不同、敬称略)

5. 会期：2025 年 12 月 10 日 (水) ～ 2026 年 2 月 23 日 (月・祝) 計 67 日間

〔会期中、12月29日 (月) ～1月3日 (土)、13日 (火)、14日 (水)、2月9日 (月) は休館日〕

6. 会場：港区立みなと科学館 多目的ロビー

1. 展示構成

冬の企画展「進化のフシギ～変わり続ける生きものたち～」は、「進化ってなんだろう」「古生物の進化の道すじ」「自然環境に合わせた進化」「人と進化のかかわり」「進化を想像してみよう」の5つの章で構成されています。

1章「進化ってなんだろう」

長い地球の歴史の中で、生きものは環境との関わりの中で特徴（形質）を少しずつ変化させ、多様な姿へと進化してきました。本章では「進化」と「適応」の基本的な概要について紹介し、生きものがどのように姿を変えながら生きてきたのか、JT生命誌研究館による作品「生命誌から生まれた世界観」を通して解説します。



生命誌から生まれた世界観

©JT生命誌研究館

2章「古生物の進化の道すじ」

■ 進化の代表！恐竜と鳥を比べてみよう

長い時間をかけて種が大きく変化する、恐竜から現生の鳥への大進化の代表例を、実物大模型や化石レプリカ、はく製標本によって紹介します。恐竜から鳥への進化の中間点として始祖鳥の化石レプリカも展示します。



ティラノサウルスの動く模型
©KOKORO. CO. LTD.



始祖鳥化石レプリカ
©国立科学博物館



鳥のはく製標本
©国立科学博物館

■ 古生物たちの大進化

恐竜以外にも、長い時間をかけて進化してきた古生物は数多く存在します。小型化したものや一部の器官が退化した例として、メガロドンとホホジロザメの歯、ウミサソリとサソリ、アンモナイト・ベレムナイトとイカなど、化石種と現生種の実物化石、化石レプリカ、現生の標本などを並べて紹介します。古生物が進化の過程でどのように姿を変えてきたのか——。化石と現代の生きものを比較しながら、そのつながりをたどってみましょう。

【小型化したものの例】ウミサソリとサソリ



ウミサソリ
化石レプリカ
©国立科学博物館

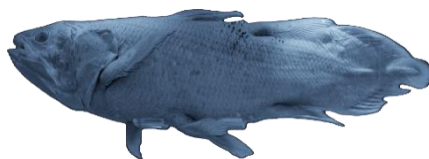


サソリ標本
©国立科学博物館

■ ずっとこのままが良い？ 同じ姿の生きものたち

長い年月をかけて進化し、姿を変えて生きていく生きものに対して、「生きた化石」とも呼ばれ、あまり姿を変えずに現代も生き続ける生きものも存在します。その一例として、シーラカンス、イチョウ、メタセコイヤについて、模型、実物、映像を用いて紹介します。

同じ姿で生き続ける
シーラカンス



3章「自然環境に合わせた進化」

■ 違うのにそっくり!? 「収斂（しゅうれん）進化」って何だろう

同じ場所でくらしている生きものには、違う種であっても、形や能力が似ている例があります。たとえば、海でくらす生きものは、泳ぐのに適した流線型の体とヒレを持つようになる点で共通しており、ミクソサウルスやスナメリがその例です。また、ヤドカリの仲間であるタラバガニは、浅瀬からより深い海へ進出する過程でカニのような姿へと進化してきました。映像資料や模型、標本を通して、異なる種がどうしてそっくりになっていったのかを紹介します。

【収斂進化の例】ミクソサウルス（魚類のように流線型の体とヒレを持つ）



ミクソサウルス化石レプリカ
©東京都市大学 古生物学研究室

【収斂進化の例】タラバガニ（ヤドカリからカニのように進化し平たい姿とかたい殻を持つ）



ヤドカリ標本
©東京海洋大学



タラバガニ標本
©東京海洋大学

■ 敵？仲良し？かかわりあってともに進化する「共進化」

生きものどうしは関わり合う中で、共に進化することがあります。

その一例として、まず捕食者と獲物が互いに能力を高め合ってきた、ライオンとシマウマの関係を紹介します。また、メガテリウム（巨大なナマケモノ）に食べられることの多かったアボカドは、その影響を受けて大きなタネを持つものが生き残ってきました。さらに、海の生きものの共進化については、映像資料で紹介します。



メガテリウム復元図
（巨大なナマケモノ）

■ 生き残りをかけたびっくり進化「適応進化」

生きものが、環境との関わりの中で少しずつ進化して手に入れた特徴について、めくりクイズを用いて解説します。

また、適応進化の一つに、色や形を周囲に似せて身を守ったり獲物に近づいたりする「擬態」があります。体験展示「擬態のフシギ」では、絵の中に巧みに隠れている生きものを探してみましょう。



周囲の色に擬態するカメレオン

■ 生きるための歯のフシギと偏食のフシギ

「歯を比べてみよう！」では、パネル・標本・模型を通して、草食・肉食・魚食の生きものの歯を恐竜（化石）と現生種で比較します。食べるものの違いによって、歯の形や役割がどのように発達し受け継がれているのかを紹介します。さらに、人の歯と見比べることで、様々な歯の形を受け継いだ「雑食の歯」の特徴を見ていただきます。

また「偏食のフシギ～なにを食べるかな？～」の体験展示では、同じ環境にいたにもかかわらず、進化の過程で特定の食べ物だけを選んで食べるようになった生きものを紹介します。

肉食の歯：



小型肉食恐竜の歯化石



ライオンの歯
©国立科学博物館

■ 【コラム】ミクロの世界の進化をみてみよう！

目に見えない小さなプランクトンは、環境適応によってどのように形態を変化させていったのでしょうか。放散虫の進化の模型を用いて、その特徴を紹介します。

放散虫進化モデル3D模型
© RC GEAR



4章「人と進化のかかわり」

人の活動によって環境が変化し、その変化に適応して進化をしていく生きものもいます。たとえば、通常のカタバミは緑色ですが、都市では夏の高温などの影響を受け、より光合成しやすいよう葉が赤く変化した“褐色化したカタバミ”が観察できます。また、都市のスズメは田舎のスズメより鳴き声が高くなっており、それらを聞き比べていただきます。港区を含む都市という環境でごく短期間で進化した「都市進化」の姿に、ぜひ注目してみてください。



5章「進化を想像してみよう」

展示全体を通して進化への理解を深めていただいた上で、わたしたちが自然環境や生物とどのように向き合べきかについて自ら考えていただきます。

■ 進化を想像してみよう！

「人はテレパシーで会話できるように進化するかも？」「2mくらいの巨大猫が誕生するかも？」など、今回の企画展の展示を通して、来館者が想像するこれから先の進化についてカードに記入してもらい、館内に掲示します。来館者同士のさまざまな想像を共有することで、生きものが様々な環境とのかかわりの中で多様な進化を遂げてきたことや、これからの自然や生きものとの向き合い方について考えていただきます。

2. 関連イベント

企画展の開催期間中には、以下の関連イベントを開催いたします。

テーブルサイエンス (※) 「くるっと変身! 進化のフシギ」

(※) テーブルサイエンスとは、机上で短時間楽しめる実験や工作プログラムです。



■ 内容：

カードのはしを引くと、生きものの姿が大変身！今の生きものの祖先について考えます。また、昔の生きものからどう進化したのか、進化に関するクイズと、くるっと変わる「進化カード」の工作で、進化のフシギを楽しく学びます。

■ 日時：会期中毎日開催、10:00～18:00 (最終受付17:45)

■ 所要時間：約 15 分間

■ 場所：多目的ロビー

■ 定員：1 回につき 5 人程度

■ 対象：どなたでも

(小学校3年生以下は18歳以上の保護者同伴)

■ お申込み方法：予約不要 (随時受付)

■ 参加費：無料

特別体験展示「移動博物館～触って学ぶ進化のカタチ～」



講師：NPO法人 Science and Art

子どもから大人まで幅広い世代に身近な自然や科学の楽しさを伝えることを目的に、実物標本を用いた観察会やワークショップを企画・運営している非営利団体。2025年より、標本を自由に観察し触れることができる施設『小さな博物館』を開館。学校や地域とも連携し、新しい学びの形を提案している。

■ 内容：

みなと科学館に、普段博物館で見ている標本たちが大集合！化石や標本を実際に見て、触って、細部まで詳しく観察し、進化について考えます。

■ 日時：2025年12月14日(日)、2026年1月18日(日)

①10:00～12:00 (最終受付11:45)

②14:00～16:00 (最終受付15:45)

■ 所要時間：約 30 分間

■ 場所：実験室

■ 対象：どなたでも

(小学校3年生以下は18歳以上の保護者同伴)

■ お申込み方法：予約不要 (随時受付)

■ 参加費：無料

講義・ワークショップ「生き残るってむずかしい！恐竜の進化、絶滅...みなと科学館でよみがえる!!」



講師：地球科学 可視化技術研究所 所長
芝原 暁彦 氏

古生物学者、博士（理学）。18歳から20歳まで福井県の恐竜発掘に参加し、その後は北太平洋やオマーンなどで微化石の調査を行う。筑波大学で博士号を取得後は、つくばの地質標本館で博物館展示と3D-CAM（コンピュータ支援製造）に関する研究を行った。2016年には地球科学可視化技術研究所を設立。2019年より福井県立大学恐竜学研究所の客員教授を兼任。テレビ出演、著書も多数。

■ 内容：

かつて地球を闊歩していた恐竜たちも、環境に適応しながら進化とともにその姿を変えてきました。本講義・ワークショップでは、恐竜を中心とした進化の歩みをわかりやすく紹介。さらに、実物大の恐竜映像を投影し、恐竜が走り、飛び、息づく姿を体験します。

■ 日時：2026年1月24日(土)

①13:00～14:10 ②15:30～16:40

■ 所要時間：約 70 分間

■ 定員：各回 25 人

■ 対象：小学生～大人

（小学校3年生以下は18歳以上の保護者同伴）

■ お申込み方法：みなと科学館HPよりお申込みください

■ 参加費：無料

講演会「海へ進出したほ乳類の進化の物語」



講師：東京海洋大学 学術研究院
海洋環境科学部門准教授 中村 玄 氏

鯨類の形態学に基づく大型鯨類の分類研究や鳴音発生機構の解明、小型鯨類“スナメリ”の市民参加型調査研究、3D技術を使った骨格標本プロジェクトなどを推進しており、科学と教育の両面で成果を発信している。一般向け著書に『クジラの骨と僕らの未来』や絵本『海でつばさを手に入れる 5300万年前に始まったクジラの挑戦』などがあり、NHK Eテレをはじめとしたテレビやラジオにも出演している。

■ 内容：

クジラは昔、陸にすんでいた!? 人と同じほ乳類の仲間であるクジラが海へ進出した進化のお話をお聞きます。わたしたち人間と海に暮らす鯨類の進化について考えます。

■ 日時：2026年2月7日(土) 14:30～15:40

■ 所要時間：約 70 分間

■ 場所：実験室

■ 定員：40 人

■ 対象：小学校3年生～大人

（小学校3年生は18歳以上の保護者同伴）

■ お申込み方法：みなと科学館HPよりお申込みください

■ 参加費：無料

講演会「私たち生きものの中の私－生命誌から考える－」



講師：JT生命誌研究館 名誉館長
中村 桂子 氏

理学博士。1993年にJT生命誌研究館を創設。館長として生命の研究と教育の両面で活動を牽引し、研究者や一般市民との対話を通じて生命の本質を探究してきた。著書には『自己創出する生命』『生命誌とは何か』『科学者が人間であること』など多数があり、生物多様性と人間社会とのつながりを広く社会に伝える取り組みを行っている。

■内容：

わたしたち人間は40億年の壮大な進化の中で多くの生きものの中の一つとして生まれました。JT生命誌研究館 名誉館長 中村桂子氏をお迎えし、生命誌の視点で、自然と人が共に歩む「生命誌から生まれた世界観」と生きものであるヒトとして多様ないのちを大切にする考え方についてお話しいたきます。

■日時：2026年2月8日(日) 14:00～15:20

■所要時間：約 80 分間

■場所：実験室＋オンライン

■定員：30 人（会場）＋200人（オンライン）

■対象：中学生以上

（興味関心の高い小学校4年生以上も参加可）

■お申込み方法：みなと科学館HPよりお申込みください

■参加費：無料

●港区立みなと科学館概要●

所在地：東京都港区虎ノ門 3-6-9

開館時間：9:00～20:00（最終入館時間 19:30）

休館日：毎月第二月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）※臨時休館日あり

入館料：無料 プラネタリウムは有料 一般投影（1回分）大人 600円／小・中・高 100円

みなと科学館公式サイト：<https://minato-kagaku.tokyo/>

公式 X: @minato_kagaku 公式 LINE: @minato-science 公式 youtube: @user-qe9tu7fh1f

【問い合わせ先】港区立みなと科学館 広報担当

電話：03-6381-5041（9:00～20:00） FAX: 03-3578-3719

e-mail：koho@minato-kagaku.tokyo

港区立みなと科学館
2025 冬の企画展

2025年
12/10 水

2026年
→ 2/23 月・祝

休館日
12月29日(月)～1月3日(土)
1月13日(火)、14日(水)
2月9日(月)

進化のフシギ
生き残るってむずかしい!

変わり続ける生きものたち

入場無料

主催：港区立みなと科学館
監修：地球科学可視化技術研究所
芝原 曉彦 氏

協力：国立科学博物館、JT生命科学研究、
東京理科大学 生命科学研究室、
NPO法人Science and Art、
鳥羽水族館、公財 東京動物園協会、
しなわ水族館、アクアマリンふくしま、
東京海洋大学 マリンサイエンスミュージアム、
RC GEAR はか
※観不同、敬称略

港区立みなと科学館
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-6-9 TEL: 03-6381-5041

公式 X @minato_kagaku
公式 LINE @minato-science
公式ウェブサイト <https://minato-kagaku.tokyo/>

入館料 無料（プラネタリウムのみ下駄料金が必要です）
・一般投影（一回分）大人：600円
・小学生、中学生、高校生：100円

利用のご案内 開館時間：午前9:00～午後8:00（最終入館は午後7:30）
休館日：第2月曜日、年末年始 ※臨時休館日あり
※小学校3年生以下は18歳以上の保護者の同伴必須

「進化のフシギ～変わり続ける生きものたち～」

ビジュアル